

# 葉の抗菌成分

SSHⅡ生物 太田 亜美

## ◎要旨

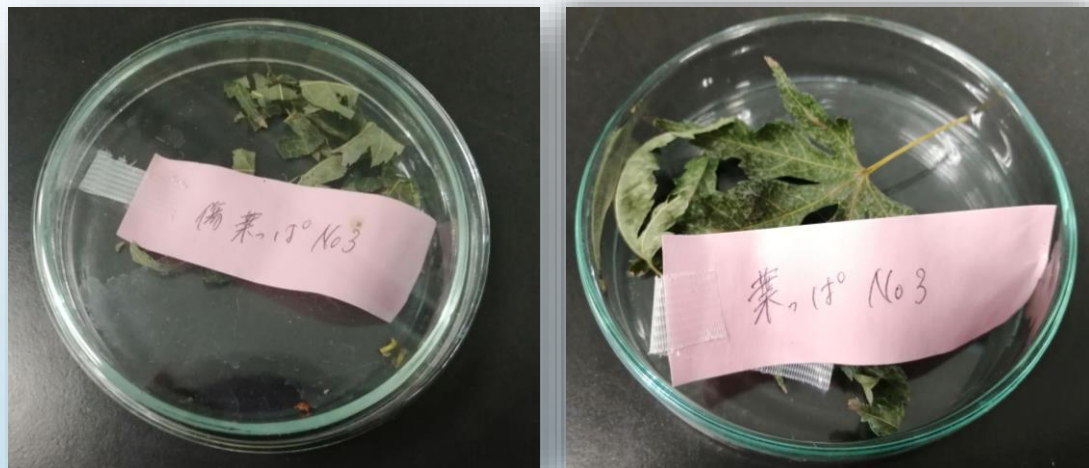
葉に含まれている抗菌成分は、葉の状態によって働きが変わるのだろうか。



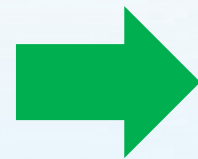
## ◎目的

葉に含まれる抗菌成分が多くなる状態、働きが活発になる時期が分かれば薬草などとして使いやすくなる。

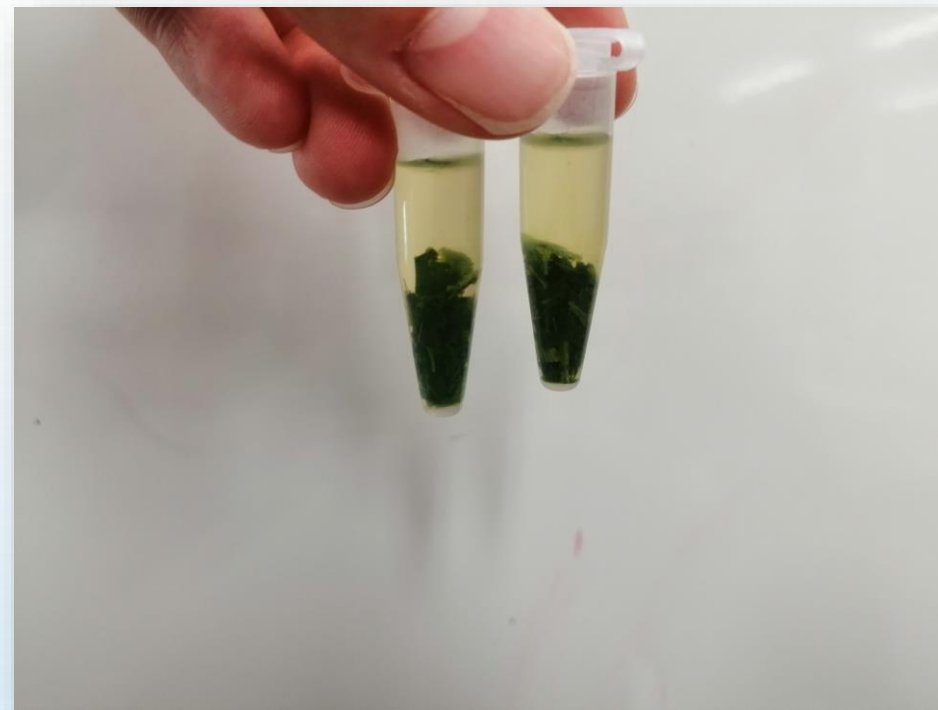
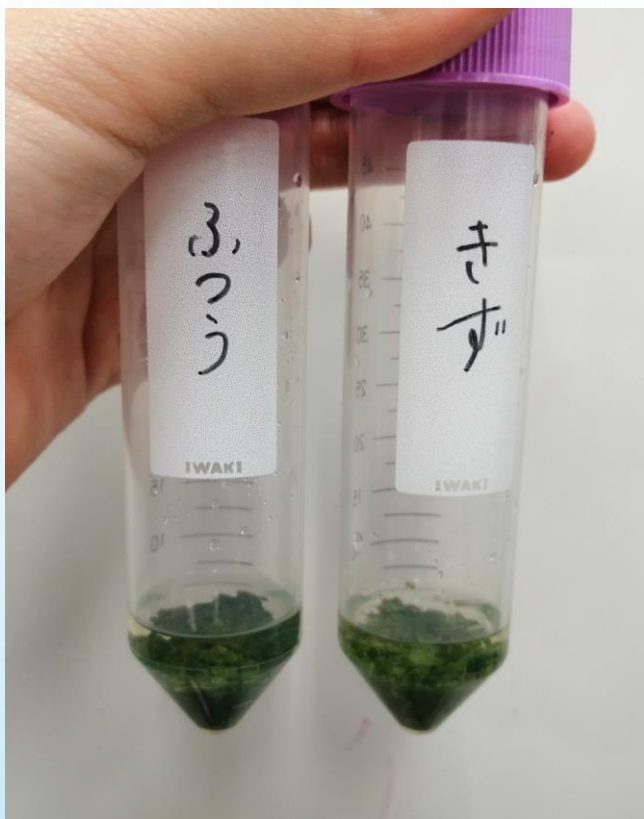
# ◎方法



葉を2種類用意する

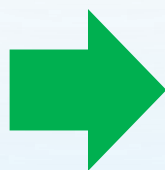
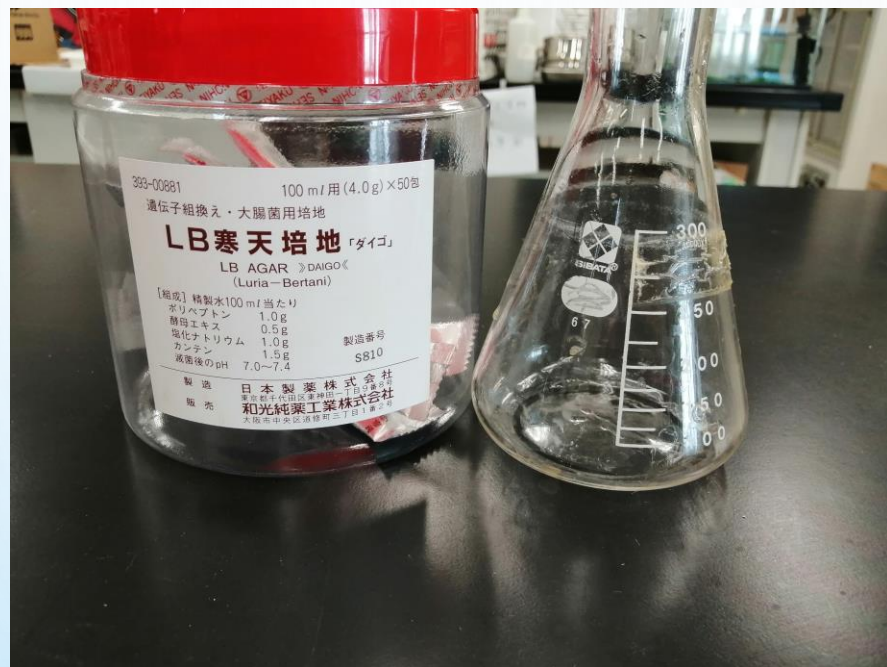


マイクロ遠心機に5分間かける



上澄み液を実験で使用する

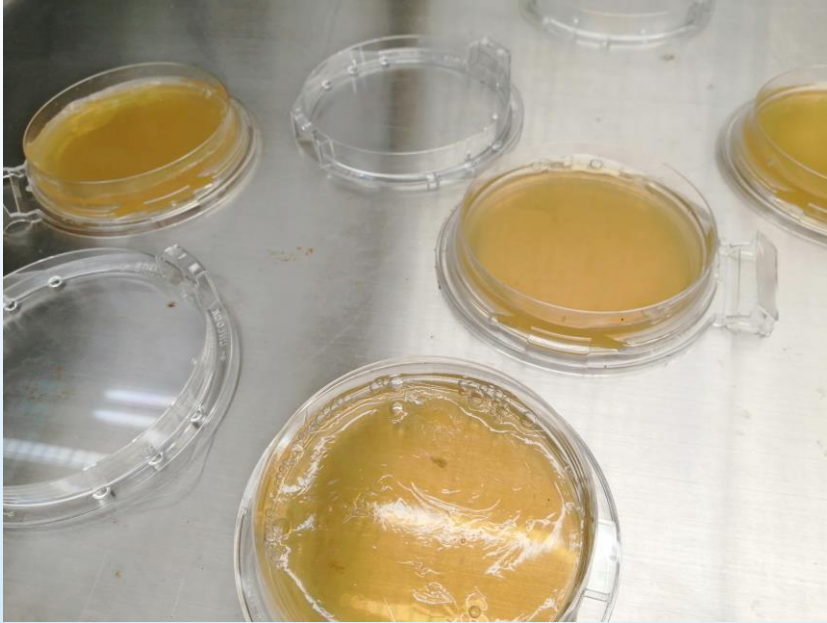
# 寒天培地



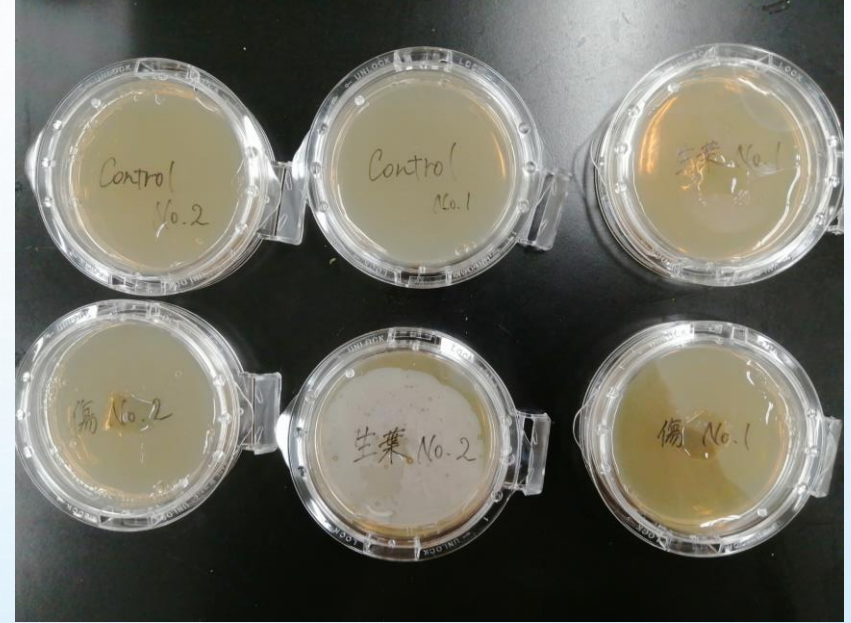
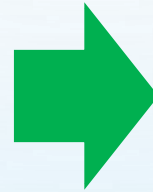
ビーカー300ml、蒸留水300ml

LB粉末12.0g

オートクレーブ15分間



50～60°C程度まで冷まし、抗生剤を添加



抽出液を散布し、一週間培養する

## ◎仮説

①抗菌成分は傷つけた葉のほうが多い

②生葉のほうが抗菌成分は多く含まれる

③生葉で傷がついているものが一番抗菌作用が強い



# ◎仮説の根拠

①葉が傷から侵入してきた菌を殺そうとするため

②紅葉してしまった葉は枯れているのと同じ状態にあるため



## ◎今後の展望

①生葉の抗菌成分の実験を終わらす

②11月中に紅葉した葉の実験を生葉と同様にして行う

③紅葉以外の植物でも同様の実験を行う

## ◎参考文献

- 七訂版スクエア最新図説生物
- [HTTPS://TEICOPLANIN.HATENABLOG.COM/ENTRY/2019/11/26/193207](https://teicoplanin.hatenablog.com/entry/2019/11/26/193207)
- [HTTPS://KATOSEI.JSBBA.OR.JP/VIEW HTML.PHP?AID=398](https://katosei.jsbba.or.jp/view_html.php?aid=398)
- [HTTPS://WWW.NAGANO-C.ED.JP/SEIHO/INTRO/RISUKA/KADAIKENQ/PAPER/2015/2015-2%20HANOKOUKINSAYOU.PDF](https://www.nagano-c.ed.jp/seiho/intro/risuka/kadaikenq/paper/2015/2015-2%20hanokoukinsayou.pdf)

ご清聴ありがとうございました